

くらしの文化財探索3

厚木市郷土資料館

一四三〇〇〇三 厚木市寿町三十五二十六

「くらしの文化財」とは何でしょうか。文化財として国や県、市町村から指定されていなくとも「ふるさと」にとって大切なものはたくさんあります。あつぎに暮らす者として「民俗文化財」とは何か、どのような意味を持つのか、それを「くらしの文化財」資料から実感し、興味を深めていきます。自分自身の日常生活、生活慣行を、民俗文化財としてみなおすためのヒントとなるような講座を目指していきます。

*

予定しておりました六月九日の講座は、担当者が収蔵庫の引越し担当となり、中止になりました。申し訳ございませんでした。これも明日に伝えるべき資料のためです。ご容赦願います。アクセストの収蔵庫を出た民



俗資料は、下川入自然園、旧青年の家跡地の一角に建造されました。プレハブに無事、収納されました。プレハブとはいえ、アクセストの収蔵室と同じ面積をもつ立派なものです。写真上、初公開です。いずれ皆さんにもご案内したいと考えております。

さて、九月開催予定の「変わってきた人々のくらし」ですが、だんだんと期日が迫ってまいりました。担当者としては、少し焦ってきているのですが、会員の方々の経験、知識が頼りです。よろしくお願いたします。

六月二十三日に行われた第三回目の会では、平塚市博物館の浜野達也学芸員に「食の道具を展示する」ことの課題、ポイントを私たちの展示に即して話していただきました。

平塚市立博物館の企画展「食の民具たち」における民俗探訪会そのコラボレーションを紹介する中で、具体的なアドバイスとなりました。探訪会の整理作業が進む中、要望が高まり、ついに臼と杵で精米、館蔵の資料で炊き、飼料の食器での食事会があったそうです。設備の整わない厚木では可能性が低いでしょうが、会員の方々も興味をもたれ



たよつです。

今回の展示は資料整理をメインとしたものではありませんが、いろいろと参考になりました。「資料からストーリーを作って推理する何のどの部分を見せるのかを念頭に」といって、前回講師・佐川さんからのヒントと共通する部分とともに、「分かったところまでを説明、不明な点は見学者に聞いてしまつ」というスタンスもある、ということをお学びました。

平塚の杵は硬い樺材でできていることが多いのですが、先に松の木が継いでるのは何故か、という具体例で、

リペアー用、 搗くとき米が割れてしまつので柔らかい材を使用、といった可能性が指摘されました。これは、樺材が多い白にも松の埋め木があるのを理由に、の可能性が高いとのこと。他にも、オヒツを保温する藁容器に油紙が張られた理由、水桶の底に刻まれた多数の線の意味、人寄せ用の吸い物碗の実と比べ蓋の数が多い(平均で一・四倍くらい)は何故か、ご飯用のオヤワンが不揃いな理

由、角樽に白木と朱塗りのものはどう使い分けられていたのか等々…を見学者に尋ねたのだそうです。会員は年齢、性別、出身地もバラバラですから、いずれにしても会員相互で教えあつという姿勢が大切と浜野さんは強調されました。

さて、具体的な作業に入った七月十四日、会員は衣・食・住の三グループに別れ、展示の構想を練り始めました。四、五人ずつの共同作業が、今後どのように発展していくか楽しみです。展示資料は、館蔵のものとお会員のからの借用になるかと思えます。狭い展示室ですが、会員の方々の思いに満ち溢れた展示にならないでしょうか。

会員各々の経験、知識が展示に直結します。本で調べたことと違って、体験してきたことには確かさがありません、力があり、説得力があります。大昔のことでもなくとも、いいのではないかと思います。観客のメインとして想定している小学四年生に、「へえー」とかなるほどとか、そういった何かを感じてもらえればいいのではないかと思います。昔の人は「道具が乏しくて大変だった」とか、逆に「思った以上に道具が工夫されていた」以外の、想定外の感想がでてくるものと信じています。

今回の展示には、さまざまな意味で、学芸員が企画した展示にはないものが期待できます。乞う、ご期待 (担当 大野)